

ぬかつけ、ちやめつけ、はっちやけ

ぬかつくとこ編

ここは、岡山の「ぬかつくとこ」。

障害者福祉施設だけれど、

なぜかちよつと寄りたくなる不思議なところ。

一人宇宙にひたる人もいれば、

みんなで大騒ぎ、ぬか騒ぎにおぼれるときもある。

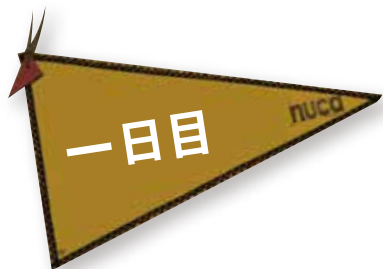
その世界をことばで捉えようとすれば、

指の間からこぼれ落ちていくばかり。

何はともあれ、ぬかるみにはまって、

何度も訪れたくなる人も多いという

岡山の新名所へ、ご案内いたします。



投げキスで、あいさつ

ぬかに到着すると、男性が投げキスを交わしている。ぬかびとさん（ぬかでは、利用者を「ぬかびと」と呼ぶ）かと思ったら、二人ともスタッフだった。コトノネ観光課のツアー客が見ていたことを知り、「見られてるの、知らなかった」と言っている。お客さんがいるからではない。普段から、投げキスしているのだ。あれ、あれ。

「キムと言います」と、そのうちの一人が自己紹介してくれた。韓国の人なのか、と思っていると、「川上っていうんですが、最初に木村と間違われて、それからずっとキムなんです」。何が、なんだか。

建物の中に入ると、「ウェルカムドリンク」という名のコーヒーが出た。毎日、ぬかびとさんにもウェルカムドリンクが出るそうだ。「飲み物」と呼ぶか、「ウェルカムドリンク」と呼ぶのか。もう「ぬか劇場」がはじまっていた。



ぬかの代表、中野厚志さん。

最初のオリエンテーションのとき、ツアー客が気になってしょうがないしょうへいさん。席あるよ、と声をかけるが、無理に参加もさせない。



編集部=文
text by KOTONONE
加藤友美子=写真
photograph by Yumiko Kato